

令和5年11月24日

令和5年度第8回定例松本市教育委員会

会 議 議 案

松本市教育委員会

令和5年度第8回定例松本市教育委員会付議案件

[議案]

- 第1号 松本市部活動地域移行推進計画の策定について【非公開】
- 第2号 松本市学校給食センター運営委員会への諮問について
- 第3号 まつもと文化遺産の認定について
- 第4号 松本市時計博物館の臨時休館について

[報告]

- 第1号 学都松本推進事業の実施について
- 第2号 遠距離通学児童・生徒に対する通学費扶助要綱の運用について【非公開】
- 第3号 令和5年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について
- 第4号 指導上の措置について【非公開】

[周知]

- 1 年末年始期間における貸出冊数の変更について
- 2 松本城南・西外堀跡発掘調査現地説明会の開催について

[その他]

議案第 2 号

松本市学校給食センター運営委員会への諮問について

1 趣旨

令和5年度途中からの学校給食費改定を行うことについて、松本市学校給食センター条例第5条第2項の規定に基づき、松本市学校給食センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に諮問することについて協議するものです。

2 諮問する内容

松本市学校給食センターの学校給食費1食あたりの金額

3 学校給食費の現状

- (1) 令和5年度から給食食材の高騰により、給食費を1食あたり10円の値上げの実施。ただし、値上げ分については、公費負担（教職員除く）。
- (2) 給食食材の高騰が続き、給食の質を維持することが困難になってきていること。
- (3) 現在の給食費

現行給食費	小学校	中学校
センター	290円	340円

4 根拠法例

（運営委員会）

第5条 教育委員会の附属機関として、松本市学校給食センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、教育委員会の諮問に応じ、学校給食に関する重要な事項を審議し、その意見を答申する。

5 今後の予定

教育委員会として、速やかに運営委員会へ諮問します。

担当 学校給食課

課長 三代澤 昌秀

電話 86-1130

教育委員会諮問第 号
令和5年 月 日

松本市学校給食センター
運営委員会委員長 様

松本市教育委員会

学校給食費の改定について

松本市学校給食センター条例第5条第2項の規定により下記のとおり貴運営委員会に諮問します。

記

- 1 諮問する内容
令和5年度2月からの学校給食費の1食当たりの金額

議案第 3 号

まつもと文化遺産の認定について

1 趣旨

「まつもと文化遺産認定制度実施要綱」に基づき、認定申請のあった1件を「まつもと文化遺産」として認定することについて協議するものです。

2 内容及び経過

松本市歴史文化基本構想において設定した関連文化財群のなかで、市民が主体となって継続的に保存活用が実施できると認められるものを教育委員会が認定し、必要に応じた支援をしていくものです。

本件は、令和5年10月6日開催のまつもと文化遺産保存活用協議会において申請者のヒアリング等の審査を行い、了承されたものです。

3 認定する案件

貞享騒動の記憶

詳細は別紙1のとおり

4 根拠法令

まつもと文化遺産認定制度実施要綱

別紙2のとおり

5 その他

(1) 今回の認定により、まつもと文化遺産は8件となります。

(2) 保存活用団体の活動に対し補助金を交付し、市民による地域の文化財の保存、活用を支援します。



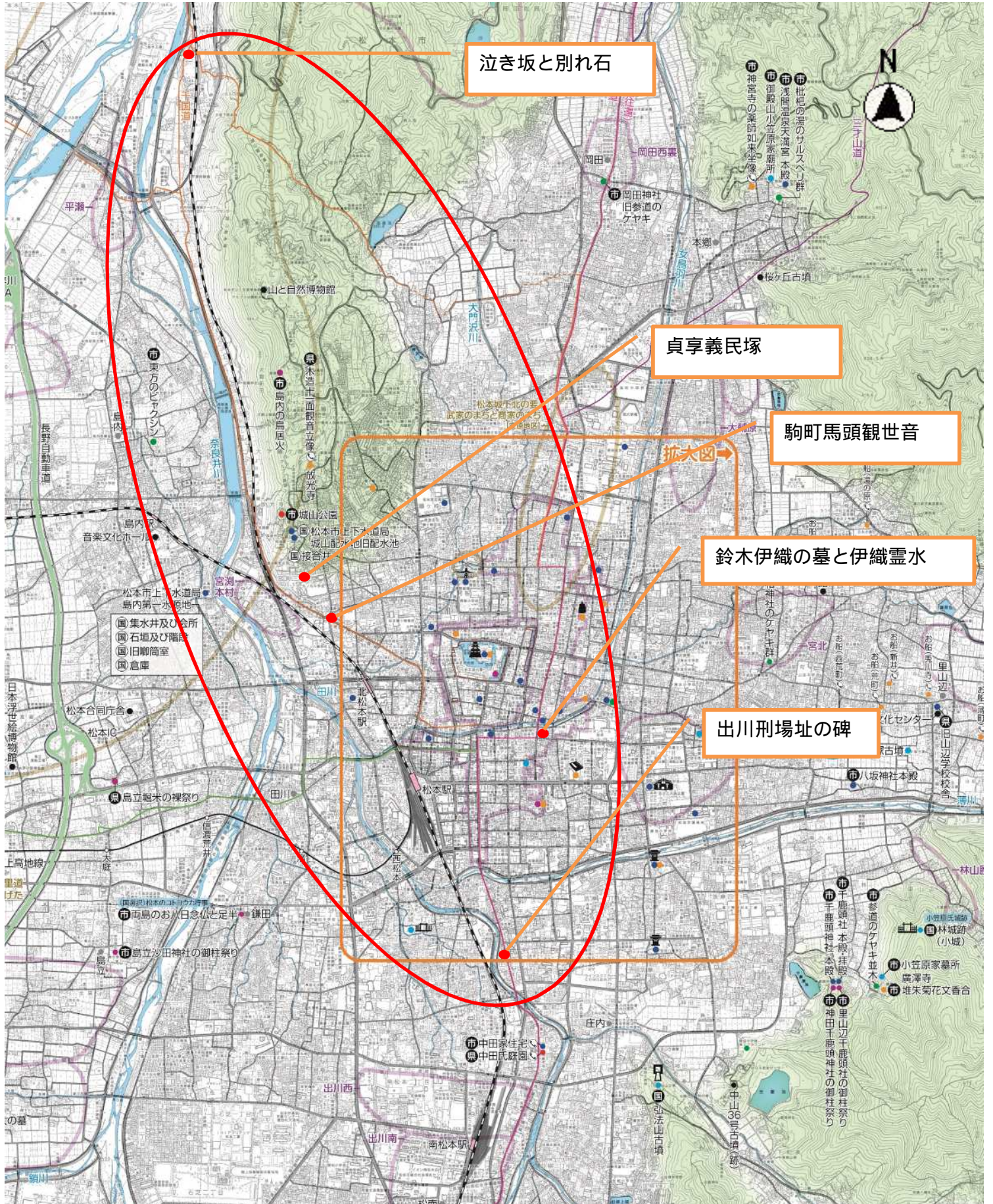
担当	文化財課
課長	竹原 学
電話	34-3292

まつもと文化遺産候補の概要

名 称	貞享騒動の記憶
申 請 日	令和5年9月22日
保存活用団体	義民塚を守る会 代表者 二木馨三
構成する文化財 (関連文化財群)	貞享義民塚、出川刑場址の碑、鈴木伊織の墓と伊織霊水、駒町馬頭 観世音、泣き坂と別れ石
【ストーリー】 「貞享騒動」は、貞享3年(1686年)に松本藩領内で起きた大規模な百姓一揆で、首謀者の名を取って加助騒動とも呼ばれます。水野家3代藩主の忠直が年貢の負担増を課したことから、これに反対する農民が藩内全域で蜂起し、1,700人余りが城下に押し寄せたといわれます。藩はこの一揆の首謀者とその家族を城山と出川の刑場で処刑しました。昭和25年(1950)城山の刑場跡から出土した人骨を埋葬した義民塚がつくられ、現在まで慰霊祭が行われています。 貞享騒動は、明治時代に自由民権運動が盛んになると、「権力への抵抗」の先駆けとして貞享義民が評価され、顕彰が行われるようになり、現在も人々の記憶に残り続けています。	
【活動】 平成28年(2016)公益法人制度の見直しによって、義民塚を築いた際に発足した貞享義民顕彰会が解散するにあたり、株式会社サンエネックにより大規模な義民塚聖域整備事業を実施しました。整備にあたった関係者によって「義民塚を守る会」を設立し、義民塚及びその周辺の環境維持活動を実施しています。また、義民塚の清掃を丸の内中学校PTAと連携して行っています。 今後の活動として、貞享騒動について関心を持ってもらうためのパンフレット作成と配布、関連文化財群の見学会開催などを計画しています。	

まつもと文化遺産 範囲図

貞享騒動の記憶



○まつもと文化遺産認定制度実施要綱

平成30年11月8日
教育委員会告示第19号

(目的)

第1条 この要綱は、市民が自らの住む地域に誇りを持ち、歴史や文化を活かしたまちづくりを進めるため、地域で保存活用されている関連文化財群をまつもと文化遺産として認定することについて必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この要綱において、「関連文化財群」とは、地域に存在する様々な文化財を歴史的・地域的関連性に基づき、一定のまとまりを持つものとして捉えることにより、それぞれの文化財が持つ価値を高め、松本市歴史文化基本構想に位置付けられた複数の文化財をいう。

(認定基準)

第3条 教育委員会は、前条の関連文化財群のうち、保存活用団体により保存及び活用されているものを、まつもと文化遺産として認定するものとする。

2 前項の保存活用団体は、次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

- (1) 保存活用団体が行う保存活用事業（以下「事業」という。）が、地域内に広がりを持ち、地域のまちづくりや活性化に寄与するものであると認められること。
- (2) 関連文化財群の保存活用に係る具体的な事業計画（以下「計画」という。）を有すること。
- (3) 担い手の育成や青少年への教育にも配慮するなど、関連文化財群の保存活用について継続性が期待できること。
- (4) 関連文化財群を構成する物件のうち、事業に係る物件の所有者又は管理者から事業実施の同意が得られていること。

(認定申請)

第4条 まつもと文化遺産の認定を受けようとする関連文化財群の保存活用団体（以下「申請者」という。）は、まつもと文化遺産認定申請書（様式第1号）に次に掲げる書類を添付して教育委員会に提出しなければならない。ただし、教育委員会が必要でないとする書類については、添付を省略することができる。

- (1) 計画の概要が分かる書類
- (2) 保存活用団体の概要が分かる書類

(3) 事業に係る物件の所有者又は管理者の同意書（様式第2号）

(4) その他教育委員会が必要と認める書類

（認定）

第5条 教育委員会は、前条の規定による申請があった場合には、その内容を審査し、適当と認めるときは、当該関連文化財群をまつもと文化遺産として認定し、まつもと文化遺産認定書（様式第3号）により、申請者に通知するものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による認定を行うときは、事前にまつもと文化遺産保存活用協議会設置要綱（平成30年教育委員会告示第9号）に規定するまつもと文化遺産保存活用協議会（以下「協議会」という。）の意見を聴くものとする。

（認定の取消し）

第6条 教育委員会は、前条の規定により認定したまつもと文化遺産が第3条の認定基準を満たさなくなったときは、まつもと文化遺産認定取消通知書（様式第4号）により、認定を取り消すことができる。

2 教育委員会は、前項の規定により認定を取り消すときは、事前に協議会の意見を聴くものとする。

（公表）

第7条 教育委員会は、第5条の規定により認定したまつもと文化遺産に関する情報を市のホームページ等への掲載により公表し、地域の魅力向上・活性化のため、まつもと文化遺産が広く周知されるよう努めるものとする。

附 則

この告示は、平成30年11月8日から施行

議案第 4 号

松本市時計博物館の臨時休館について

1 趣旨

松本市時計博物館空調設備更新工事の施工に伴い、臨時休館することについて協議するものです。

2 臨時休館期間

令和6年1月10日（水）～令和6年2月29日（木）

3 工事箇所

1階常設展示室およびホール、2階常設展示室、3階企画展示室、事務室、講座室、時計工房、屋上室外機各種

4 周知方法

松本市ホームページ・松本まるごと博物館ホームページへ掲載します。

担当	博物館
----	-----

館長	加藤 孝
----	------

電話	32-0133
----	---------



報告第 1 号

学都松本推進事業の実施について

1 趣旨

学都松本の推進に向け、学都松本推進協議会で企画・実施する事業について報告するものです。

2 事業の目的

- (1) 従来までの単発開催の学都フォーラムではなく、様々な教育施設等を会場に通年で事業を実施し、各課・施設の事業充実による市民の日常の学びの向上を目指します。
- (2) 組織横断的な連携や市民団体・大学等との協働を進め、学都松本の豊かな教育環境を市民が実感できる機会を創出します。

3 実施内容

(1) 実施期間

令和5年11月から令和6年3月まで

(2) 内容

まち歩き、映画観賞会、文化財現地見学、調理体験、施設見学など9件

(3) 会場

市立博物館、中央図書館など

※詳細は別紙資料のとおり

4 その他

事業の実施状況を、後日、松本市ホームページで公開します。

担当	教育政策課
課長	小西 えみ
電話	33-3980

令和5年度 学都松本推進事業一覧

No.	日時	主体	タイトル	会場	定員※先着順	料金	内容
1	11月18日(土) 9:30~12:00	松本都市デザイン学習会×博物館	学都のルーツを探る!あがたの森からまちへ飛び出すツアー	旧制高等学校記念館と周辺	15名 ※中学生以上	旧制高等学校記念館 観覧料(高校生以上310円、中学生以下無料)	・旧制高等学校とあがたの森周辺のまち歩き ・旧校舍等の文化財的価値と、片倉製糸場や今井五介など周辺地域の歴史を伝える
2	11月20日(月) 18:00~20:30	信州大学人文学部×博物館	信州大学連携企画『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』上映&トーク	松本市立博物館1階講堂	60名	無料	・『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』鑑賞会と三好監督と金井教授のトークイベント ・信大人文学部「地域とともに創る学び合いの場」事業との連携企画
3	11月23日(木・祝) 10:00~11:30	稲核風穴保存会×文化財課	日本の近代化を支えた稲核風穴を体感ツアー	稲核風穴・安曇資料館	15名	無料	・稲核風穴と安曇資料館の見学会 ・蚕種の保管庫や稲核菜の貯蔵庫として地域の生活・産業を支えた稲核風穴の歴史的価値を伝える
4	12月2日(土) 10:00~12:00	食生活改善指導員×健康づくり課	親子で食育~だいたず大作戦~	トライあい松本料理実習室	親子12組(24名) ※小学4年生以上	無料	・大豆を使った豆腐づくりによる親子の食育体験会 ・身近な食材を使い、食文化の継承や地域の食材の周知につなげる
5	12月17日(日) 10:00~12:00	図書館×博物館	親子ではじめての図書館と博物館ツアー	中央図書館図書館、松本市立博物館	親子10組(20名) ※小学生以下	博物館観覧料(18才以上500円、高校生以下無料)	・図書館と博物館の利用方法や楽しみ方を伝える親子講座 ・施設利用に対する敷居の高さを取り払い利用促進を図る
6	2月3日(土) 10:00~11:30	こども育成課×教育政策課	『ゆめパのじかん』鑑賞会	まつもと市民芸術館小ホール	100名	無料	・川崎市の子どもの居場所「夢パーク」を題材にした映画『ゆめパのじかん』の鑑賞会
7	2月17日(土) 13:00~16:00	図書館×文化財課×博物館	松本城のお堀を極めるツアー	図書館、松本城、博物館	20名	博物館観覧料(18才以上500円、高校生以下無料)	・松本城内堀浚渫工事の見学によりお堀を学ぶツアー ・図書館・博物館との連携により、横断的にお堀への学びを深めるとともに施設利用の促進を図る
8	2月 詳細未定	信州大学人文学部×博物館	信州大学連携企画「旧司祭館がったえたもの」トークイベント	信州大学図書館	未定	無料	・旧司祭館で実施中の信大人文学部展示「旧司祭館がったえたもの」との連携事業 ・市民が信州大学の学びを身近に感じる機会を創出
9	3月2日(土) 10:00~12:00	信州大学理学部×博物館	信州大学連携企画「上高地のニホンザルと生物多様性」	博物館	60名	博物館観覧料(18才以上500円、高校生以下無料)	・信州大学理学部東城教授による生物多様性講座 ・東城教授による講演と常設展示室での解説 ・上高地でのニホンザルの越冬など、身近な題材により生物多様性を学ぶ

報告第 3 号

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について

1 趣旨

令和5年4月18日（火）に市内全校が実施した「全国学力・学習状況調査」について、松本市における調査結果の分析と考察について報告するものです。

2 経過

- R5. 7. 31 第2回学力調査検討小委員会で、結果分析の作成及び推進日程の検討・確認
8. 17 第5回教育委員研究会で、「全国学力・学習状況調査（松本市）」速報値を報告
9. 19 第3回学力調査検討小委員会で、公表案の検討・修正
10. 19 教育委員研究会で、公表案の検討・修正
11. 13 松本市校長会で、修正を加えた公表案の報告

3 調査結果の分析と考察について

別添のとおり

4 今後の予定

11月27日（月）に、松本市ホームページに公開及び市内小中学校へ資料を送付します。

担当 学校教育課 学校支援室
教育監兼学校支援室長 坂口 俊樹
電話 33-4397

令和5年度

全国学力・学習状況調査の分析と考察（案）

（令和5年11月）



松本市教育委員会
松本市校長会学力調査検討委員会

目次

令和5年度全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕・・・p 1

1 教科に関する調査結果

- (1) 小学校国語（調査問題1一、1二、1三ア）・・・p 3
- (2) 中学校国語（調査問題3三、3四、3二）・・・p 4
- (3) 小学校算数（調査問題3(4)、4(1)、3(3)）・・・p 5
- (4) 中学校数学（調査問題1、7(2)、9(2)）・・・p 6
- (5) 中学校英語（調査問題6、10、話すこと1）・・・p 8

2 児童生徒質問紙調査結果

- (1) 国語に関する児童生徒の興味関心・・・p 1 1
- (2) 算数・数学に関する児童生徒の興味関心・・・p 1 2
- (3) 英語に関する生徒の興味関心（中学校のみ）・・・p 1 3
- (4) ICT 機器を活用した学習状況・・・p 1 3
- (5) 特別活動・道徳における状況・・・p 1 4
- (6) 総合的な学習の時間における状況・・・p 1 4
- (7) 自己肯定感等に関する状況・・・p 1 5
- (8) 主体的・対話的で深い学びの視点から・・・p 1 6

3 課題及び指導改善に向けて

- (1) 小学校国語（調査問題1一、1二、1三ア）・・・p 1 8
- (2) 中学校国語（調査問題2四、3三）・・・p 2 0
- (3) 小学校算数（調査問題3(4)、4(1)）・・・p 2 2
- (4) 中学校数学（調査問題8(3)、9(2)）・・・p 2 4
- (5) 中学校英語（調査問題6、10、話すこと1）・・・p 2 6
- (6) 小学校児童質問紙（今年度の主な特徴・総括）・・・p 2 8
- (7) 中学校生徒質問紙（今年度の主な特徴・総括）・・・p 3 0

※「3 課題及び指導改善に向けて」は、松本市内の公立小学校・中学校に勤務する教職員を対象とした内容で、授業改善の方向を共有する趣旨のものであります。

目次

令和5年度全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕・・・p 1

1 教科に関する調査結果

- (1) 小学校国語（調査問題1一、1二、1三ア）・・・p 3
- (2) 中学校国語（調査問題3三、3四、3二）・・・p 4
- (3) 小学校算数（調査問題3(4)、4(1)、3(3)）・・・p 5
- (4) 中学校数学（調査問題1、7(2)、9(2)）・・・p 6
- (5) 中学校英語（調査問題6、10、話すこと1）・・・p 8

2 児童生徒質問紙調査結果

- (1) 国語に関する児童生徒の興味関心・・・p 1 1
- (2) 算数・数学に関する児童生徒の興味関心・・・p 1 2
- (3) 英語に関する生徒の興味関心（中学校のみ）・・・p 1 3
- (4) ICT 機器を活用した学習状況・・・p 1 3
- (5) 特別活動・道徳における状況・・・p 1 4
- (6) 総合的な学習の時間における状況・・・p 1 4
- (7) 自己肯定感等に関する状況・・・p 1 5
- (8) 主体的・対話的で深い学びの視点から・・・p 1 6

3 課題及び指導改善に向けて

- (1) 小学校国語（調査問題1一、1二、1三ア）・・・p 1 8
- (2) 中学校国語（調査問題2四、3三）・・・p 2 0
- (3) 小学校算数（調査問題3(4)、4(1)）・・・p 2 2
- (4) 中学校数学（調査問題8(3)、9(2)）・・・p 2 4
- (5) 中学校英語（調査問題6、10、話すこと1）・・・p 2 6
- (6) 小学校児童質問紙（今年度の主な特徴・総括）・・・p 2 8
- (7) 中学校生徒質問紙（今年度の主な特徴・総括）・・・p 3 0

※「3 課題及び指導改善に向けて」は、松本市内の公立小学校・中学校に勤務する教職員を対象とした内容で、授業改善の方向を共有する趣旨のものです。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕

調査概要

- ◇調査対象：小学校第6学年、中学校第3学年
- ◇調査実施日：令和5年4月18日（火曜日）
- ◇調査内容：① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童質問紙、生徒質問紙）
- ◇今年度調査の特徴： 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のメッセージが込められた出題がされた。中学校英語では、令和元（平成31）年以來の「話すこと」に関する調査が、一人一台端末を利用して実施された。

教科に関する調査結果概要

- ◇平均正答率： 平均正答率は、小学校・中学校ともにすべての教科において、全国（公立）の平均正答率を上回っているものの、ほぼ同程度である。
- ◇領域別状況： 学習指導要領の領域等の平均正答率は、小学校国語「話すこと・聞くこと」、中学校国語「我が国の言語文化に関する事項」、中学校数学「データの活用」などにおいて、全国の平均正答率と比べてやや高い状況である。中学校英語「話すこと（やりとり）」については、全国とほぼ同程度である。
- ◇正答率の割合： 正答率4割以下の児童生徒の割合は、全ての教科において、全国の割合と比べてやや少ない状況である。つまり、正答率4割以下の児童生徒数が少ないことが、平均正答率を押し上げる主な要因になっていると考えられる。一方で、正答率8割以上の児童生徒の割合は、全国の割合とほぼ同程度である。
- ◇問題形式： 問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類である。記述式では、根拠を明らかにして記述したり、答えを導く方法を説明したりする問題が出題された。小学校の国語や算数、中学校の国語や数学では、記述式の問題において正答率が全国をやや上回ったものが多い結果が得られた。一方、中学校の英語では、記述式の問題における正答率は、いずれも全国を下回った。

公表に当たりの基本方針

- 各教科の「課題及び指導改善に向けて」（17頁～）では、特に課題と思われる問題を取り上げ、「（1）課題が見られた問題について」と「（2）指導の改善・充実に向けて」の2つ項目で、問題の趣旨や解答状況、授業改善の具体的な方向を示しました。
- 「知識・技能」に関する表記については、正答率8割程度を目安に「定着している」、6割未満を「課題がある」としました。「思考力・判断力・表現力等」に関する表記については、正答率7割程度を目安に「身に付いている」、5割未満を「課題がある」としました。
- 生活習慣等に関する質問紙調査については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30%、松本市40%の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています。）
- 本調査は、国語、算数・数学、英語の3教科のみであるため、学習指導要領全体を網羅しているものではありません。また、本調査は児童生徒が身に付けるべき学力の一部を調査したものであることにご留意ください。
- 国立教育政策研究所のホームページのデータを利用して作成しています。また、一部の画像等は、「令和5年度全国学力・学習状況調査」の調査問題より引用しています。

問い合わせ先 【部課名】 松本市教育委員会 学校教育課 学校支援室
【連絡先】 電話：0263-33-4397 FAX：0263-34-3206

1 教科に関する調査結果

1(1) 小学校国語

＜今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問＞

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、14問中10問で全国平均を上回っている。特に、インタビューの場面で必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることがよく身に付いている。しかし、以下の①～③については課題が見られた。

① 原因と結果など情報と情報との関係について理解することに関しては、正答率約6割でおおむね定着しているが、全国と比較するとやや下回っている。

調査問題 1 一 米作りの時に記録していたカード②とカード③の下線部の関係として適切なものを解答する選択式問題

知識・技能
情報の扱い方に関する事項

川村さんは、カードを選んだ際に、【カード②】の____部と、【カード③】の____部に関係があることに気がきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【カード②】の____部は部分、【カード③】の____部は全体について書かれている。
- 2 【カード②】の____部は結果、【カード③】の____部は原因について書かれている。
- 3 【カード②】の____部は目標、【カード③】の____部は計画について書かれている。
- 4 【カード②】の____部は考え、【カード③】の____部は事例について書かれている。

詳細は
18頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) 2

② 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに関しては、全国と比較するとほぼ同程度であるものの、正答率3割未満でかなり課題がある。

調査問題 1 二 川村さんの文章の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く記述式問題

思考力・表現力・判断力等
書くこと

川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

- 〈条件〉
- 学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
 - 問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

詳細は
19頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答例)
・グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

③ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに関しては、全国と比較するとほぼ同程度であるものの、正答率約5割で課題がある。

調査問題 1 三 ア

知識・技能
言葉の特徴や使い方に関する事項

川村さんは、【川村さんの文章】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた下線部を漢字に書き直すことにしました。

・雑草取りを続けたのですが、 いがい に雑草が生えてきて、とてもこまりました。

詳細は
19頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) 意外

1 (2) 中学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、15問中10問で全国平均を上回っている。特に、我が国の言語文化に関する事項について理解することができている。しかし、以下の②③については課題が見られた。

- ① 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに関しては、正答率約8割で身に付いており、全国を上回っている。

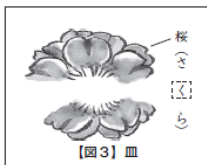
調査問題 ③ 四

『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く記述式問題

思考力・表現力・判断力等

書くこと

山田さんは、「■『判じ絵』の解説の面白さ」に【図3】としてもう一つ具体例を示して、解説の仕方を説明しようとしています。あなたなら、どのように書きますか。次の〈候補〉のA、Bから一つ選び（どちらの〈候補〉を選んでもかまいません。）、【図3】は、に続けて、【図2】の説明の仕方を参考にして書きなさい。



(正答例)

A
 (【図3】は、)真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解説すると、食事で使う「皿」という意味になる。

- ② 具体と抽象など情報と情報との関係について理解していることに関しては、全国と比較するとやや上回っているものの、正答率約6割で課題がある。

調査問題 ③ 三

『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く短答式問題

知識・技能
 情報の扱い方に関する事項

中山さんは、【A】や【B】の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、これからどのように本を読みたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 【A】か【B】、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。

イ アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読みたいかを具体的に書きなさい。

(正答例)

・分ける箇所 (ウ)
 ・見出し(例) 「判じ絵」の歴史

詳細は
 21頁

<課題及び指導改善に向けて>

- ③ 文脈に即して漢字を正しく書くことに関しては、正答率4割未満でかなり課題があり、全国と比較しても下回っている。

調査問題 ③ 二

「おし量って」の下線部のひらがなを漢字で書く短答式問題

知識・技能
 言葉の特徴や使い方に関する事項

(本文より抜粋) 解説する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。

(正答) 推

1 (3) 小学校算数

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、16問中8問で全国平均を上回っている。特に、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができている。しかし、以下の②③については課題が見られた。

- ① 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることに関しては、正答率約8割で定着しており、全国と比較すると上回っている。

調査問題 ③ (3)

(151+49)×3 と 151×3+49×3 を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める短答式問題

知識・技能

4年
数と計算

けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。それぞれの計算の答えを書きましょう。

① $(151+49) \times 3$

② $151 \times 3 + 49 \times 3$

(正答) ① 600

② 600

- ② (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに関しては、正答率5割未満で課題があり、全国と比較してもやや下回っている。

調査問題 ③ (4)

66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を解答する選択式問題

思考力・表現力・判断力等

3年、4年
数と計算

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、右のように考えることもできます。

【 $66 \div 3$ の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

$$\begin{aligned} 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\ &= \underbrace{60}_{\text{あ}} \div 3 + \underbrace{6}_{\text{う}} \div 3 \\ &= \underbrace{20}_{\text{い}} + \underbrace{2}_{\text{え}} \\ &= 22 \end{aligned}$$

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

(正答) い

詳細は
22頁 <課題及び指導改善に向けて>

- ③ 百分率で表された割合について理解することに関しては、正答率約4割でかなり課題があり、全国と比較しても下回っている。

調査問題 ④ (1)

示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを解答する選択式問題

知識・技能

5年
変化と関係

30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 100人をもとにした0.3人の割合

イ 100人をもとにした3人の割合

ウ 100人をもとにした30人の割合

エ 10人をもとにした3人の割合

オ 30人をもとにした1人の割合

詳細は
23頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) ウ、エ

1(4) 中学校数学

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、15問中10問で全国平均を上回っている。特に、数の処理についての問題場面から必要な情報を読み取り、考察の対象を明確に捉えることができている。しかし、以下の①～③については課題が見られた。

- ① 自然数の意味を理解することに関しては、全国とほぼ同程度であるものの、正答率5割未満で課題がある。

調査問題 ① - 5、0、3、4.7、9の中から自然数をすべて解答する選択式問題

知識・技能

1年
数と式

下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

- ア -5
イ 0
ウ 3
エ 4.7
オ 9

(正答)
ウ、オ

- ② 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに関しては、全国と比較するとやや上回っているものの、かなり課題があり、準正答を除く正答の割合は約2割である。

調査問題 ⑦(2)

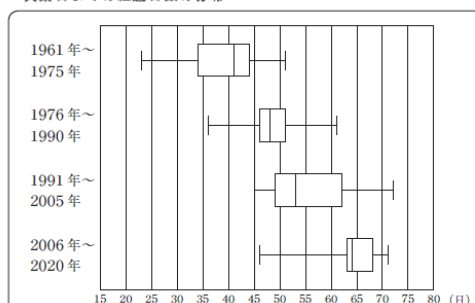
「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱の位置や大きさに着目して説明する記述式問題

思考力・判断力・表現力等

2年
データの活用

箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」

啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」

一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

(正答例)

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

③ 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る
 ことに関しては、全国と比較するとやや上回っているものの、正答率4割未満でか
 なり課題がある。

調査問題 9 (2)

二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことにつ
 いて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く短答
 式問題

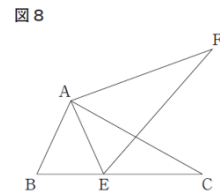
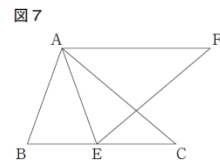
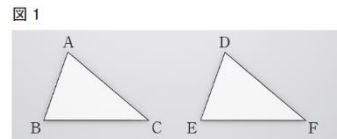
知識・技能
 2年
 図形

優奈さんは、(調査問題20ページの)方法2の直線BCと直線AFが平行になる
 かどうかを調べるために、次の図7をかきました。図7の $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は、
 それぞれ $CA=CB$ 、 $FA=FE$ で、 $\triangle ABC \equiv \triangle AEF$ です。この図において、
 優奈さんは $BC \parallel AF$ であることを証明することにしました。

$BC \parallel AF$ であることは、次のように証明できます。

証明1

$\triangle ABC \equiv \triangle AEF$ より、合同な図形の対応する辺
 と角はそれぞれ等しいから、
 $AB=AE$ ①
 $\angle ABC=\angle AEF$ ②
 $\triangle AEF$ において、二等辺三角形の底角は等しいか
 ら、
 $\angle EAF=\angle AEF$ ③
 ②、③より、
 $\angle ABC=\angle EAF$ ④
 また、①より、 $\triangle ABE$ は二等辺三角形である。
 二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle ABE=\angle AEB$ ⑤
 $\angle ABE=\angle ABC$ だから、④、⑤より、
 $\angle EAF=\angle AEB$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC \parallel AF$



次に、優奈さんは、(調査問題19ページの)図1の2つの三角形を
 $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$ であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えまし
 た。この場合も方法2でひいた2つの直線が平行になるかどうかを確かめたところ、
 2つの直線は平行になりませんでした。なぜ平行にならなくなったのかを調べるため
 に、次の図8をかきました。図8の $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は二等辺三角形ではなく、
 $\triangle ABC \equiv \triangle AEF$ です。

優奈さんは、図8で $BC \parallel AF$ とならないのは、(調査問題21ページの)証明
 1の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。図8のような二等辺三角
 形ではない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF=\angle AEB$ とならないため、
 $BC \parallel AF$ となりません。このことは、証明1をもとに、次のように説明するこ
 とができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、
 証明1の Ⅰ が成り立たないから、Ⅱ が成り立た
 ない。よって、 $\angle EAF=\angle AEB$ とならないから、
 $BC \parallel AF$ とならない。

上の Ⅰ には証明1の①、②、③のどれか1つが、Ⅱ には証明1の④、⑤の
 どちらか1つが当てはまります。Ⅰ、Ⅱ に当てはまるものをそれぞれ書きな
 さい。

詳細は
 25頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) Ⅰ ③ Ⅱ ④

1(5) 中学校英語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、22問中11問で全国平均を上回っている。特に、情報を正確に聞き取ることについては、おおむね定着している。しかし、以下の①～③については課題が見られた。

- ① 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに関しては、全国とほぼ同程度であるものの、正答率4割未満でかなり課題がある。

調査問題 6


友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを解答する選択式問題

知識・技能
読むこと

次の英文は、友達のデイビッド (David) があなたに送ったメールです。メールを読んで、デイビッドにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までのの中から1つ選びなさい。

Events on the Weekend	
Date	April 13, 2023 18:45
From	David
<p>Hello. How are you? I'm excited to stay at your house this weekend.</p> <p>I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.</p> <p>I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.</p> <p>I'm looking forward to seeing you soon.</p>	

1 **Rugby Game**




Let's watch together!

Date & Time
Saturday, April 15
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

Place
Midori Park

2 **Flower Market**



You can buy beautiful flowers!

Date & Time
Saturday, April 15
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

Place
Hikari Garden

3 **City Orchestra**



You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time
Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place
Tsubomi Hall

4 **"Cook & Eat"**



Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time
Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place
Cooking Room "Wakaba"

詳細は
26頁

<課題及び指導改善に向けて>

(正答) 3

- ② 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに関しては、全国とほぼ同程度であるものの、正答率 1 割未満でかなり課題がある。

調査問題 10

学校生活の中から紹介したいものを 1 つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題

思考力・判断力・表現力等
書くこと

あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを 1 つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を 25 語以上の英語で書きなさい。

(正答例)

Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs.

詳細は
26 頁

<課題及び指導改善に向けて>

- ③ 日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能に関しては、正答率約 1 割でかなり課題があり、全国と比較しても下回っている。

調査問題 1

動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える短答式口述式問題（解答時間 7 秒）

知識・技能
話すこと



(スクリプト)

A baby elephant! How cute! ... I can read some Japanese. Its name is Taro... it's a boy... and, what does this say?

詳細は
27 頁

<課題及び指導改善に向けて>

(正答例) His birthday is March first.

2 兒童生徒質問紙調査結果

2(1) 国語に関する児童生徒の興味関心

- ①「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では令和4年度より減少しているものの令和3年度よりは増加している。
- ②「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では令和4年度より減少しているものの令和3年度よりは増加している。
- ③「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では令和4年度より減少しているものの令和3年度よりは増加している。
- ④「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では減少している。

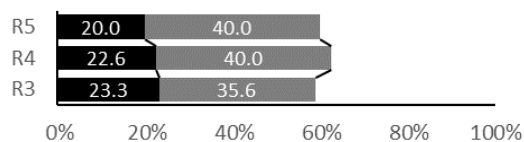
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

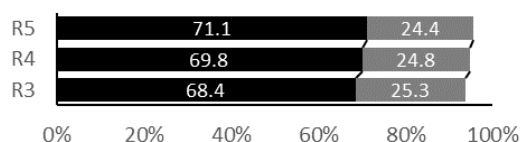
① 国語の勉強は好きですか



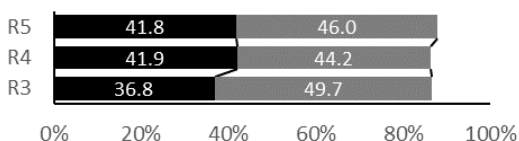
【中学校】



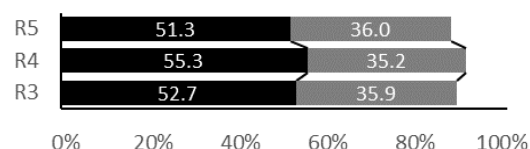
② 国語の勉強は大切だと思いますか



③ 国語の授業の内容はよく分かりますか



④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



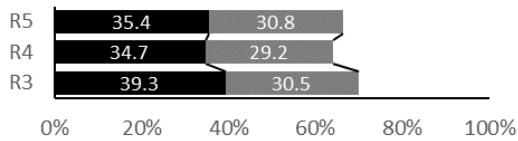
2(2) 算数・数学に関する児童生徒の興味関心

- ・小学校では、①～④の質問全てにおいて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は令和4年度よりも増加している。
- ・中学校では、①～④の質問全てにおいて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は令和4年度よりも減少している。

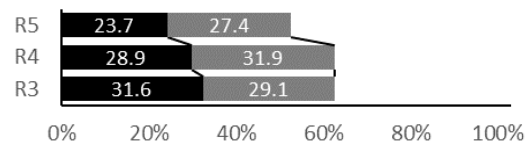
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

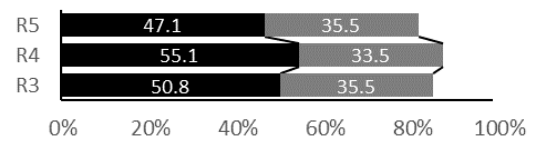
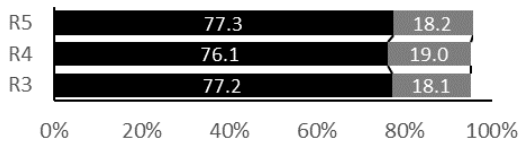
① 算数・数学の勉強は好きですか



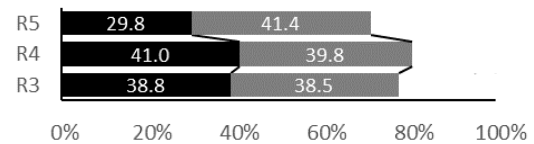
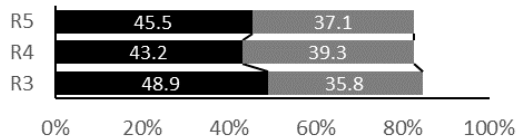
【中学校】



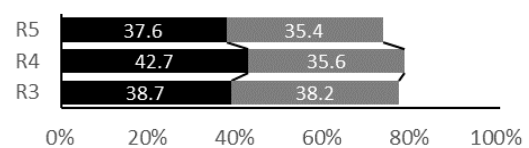
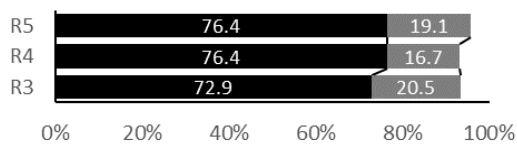
② 算数・数学の勉強は大切だと思いますか



③ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



④ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



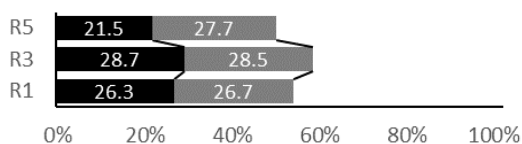
2(3) 英語に関する生徒の興味関心 (中学校のみ)

- ①「英語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、令和3年度より減少している。
- ②「英語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、約9割である。
- ③「英語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、令和元年度(平成31年度)より減少している。
- ④「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、令和元年度(平成31年度)より増加している。

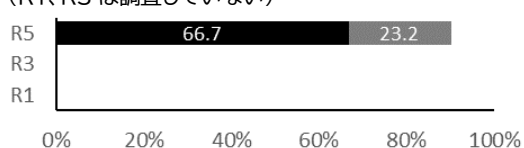
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【中学校のみ】

① 英語の勉強は好きですか



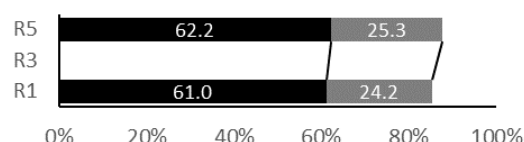
② 英語の勉強は大切だと思いますか (R1、R3は調査していない)



③ 英語の授業の内容はよく分かりますか (R3は調査していない)



④ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか (R3は調査していない)



2(4) ICT機器を活用した学習状況

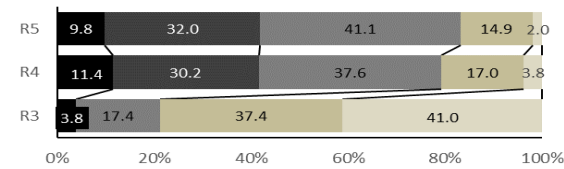
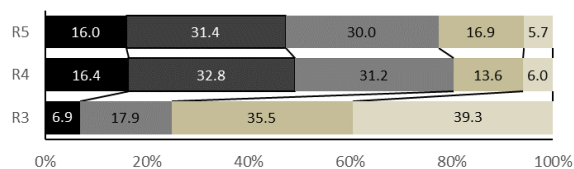
- ①「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対する回答から、ICT機器の使用頻度は令和3年度より高まっており、特に中学校での使用頻度の高まりが顕著であると言える。
- ②「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに9割を超え、令和4年度と同様に高い割合である。

【小学校】

【中学校】

① 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

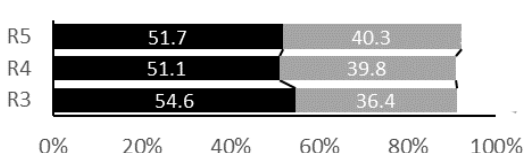
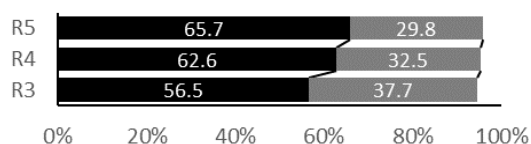
【凡例】 ■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



※ R3においては、「ほぼ毎日」、「週1回以上」、「月1回以上」、「月1回未満」の選択肢であったため、「週3回以上」と回答した学校はない。

② 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

【凡例】 ■ 役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立つと思う



2(5) 特別活動・道徳における状況

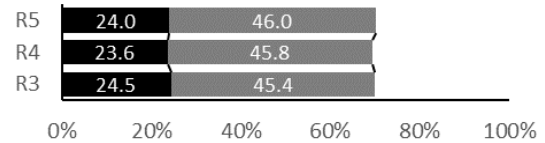
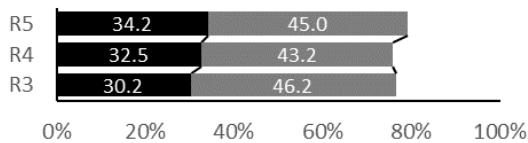
- ①「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではやや増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。
- ②「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではやや増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

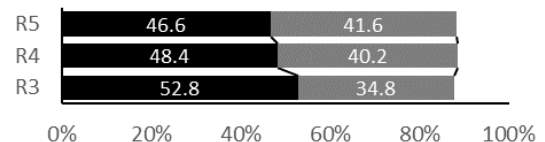
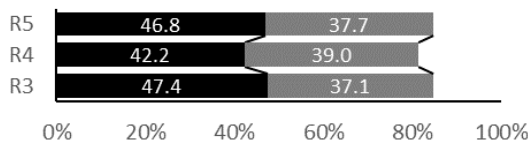
【小学校】

【中学校】

- ① 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか



- ② 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか



2(6) 総合的な学習の時間における状況

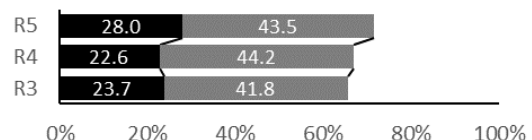
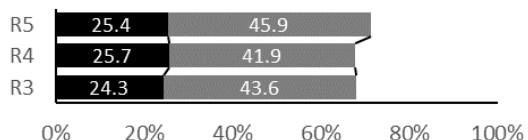
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、着実に増加している傾向にある。特に、中学校において「当てはまる」と回答した生徒の割合が増えている。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

【中学校】

- ◇ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか



2(7) 自己肯定感等に関する状況

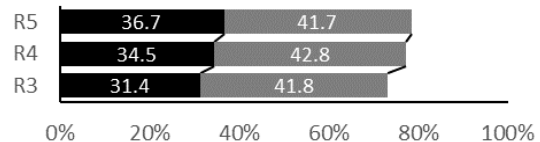
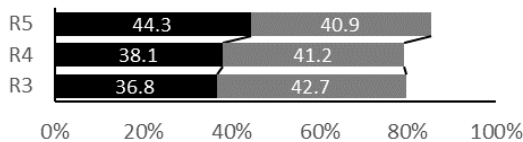
- ①「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加している。
- ②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。
- ③「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに約7～8割の間で推移している。
- ④「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

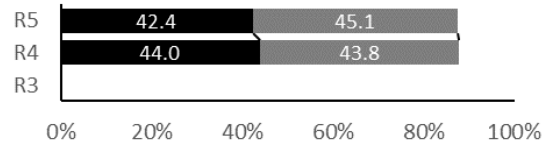
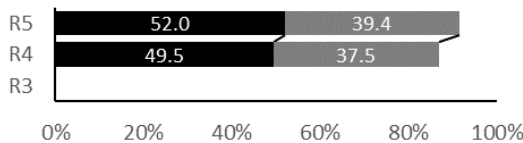
【小学校】

【中学校】

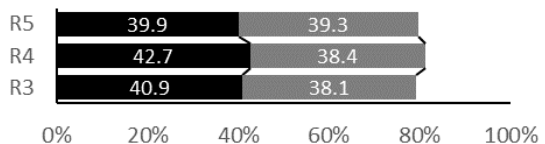
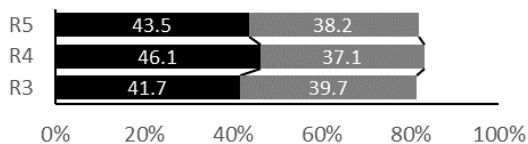
① 自分には、よいところがあると思いますか



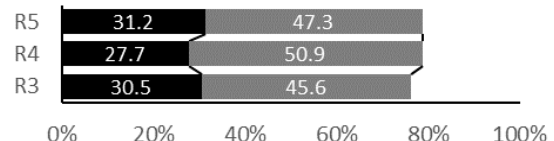
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (※R3は調査していない)



③ 学校に行くのは楽しいと思いますか



④ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



2(8) 主体的・対話的で深い学びの視点から

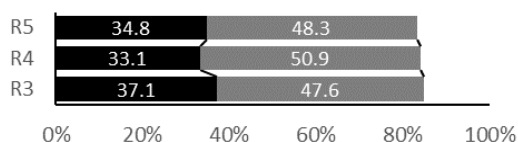
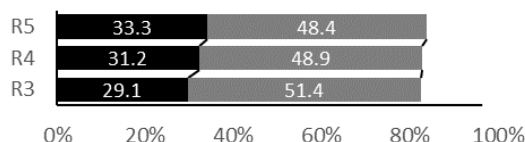
- ①「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに8割を超えている。
- ②「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、8割を超えている。
- ③「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではほぼ同程度で推移し、中学校では減少している。
- ④「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではほぼ同程度で推移し、中学校では減少している。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

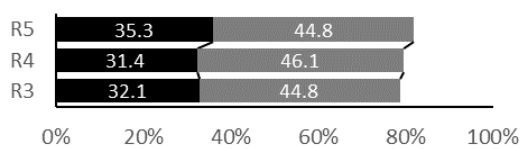
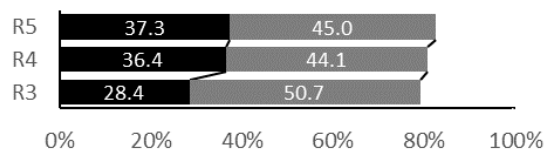
【小学校】

【中学校】

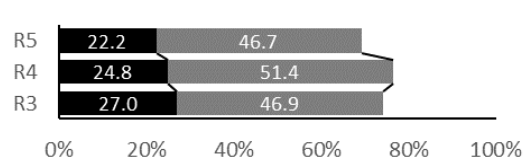
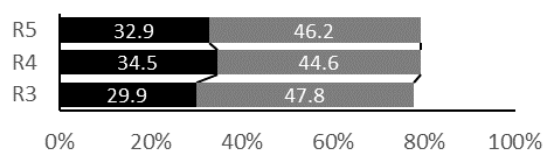
- ① 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



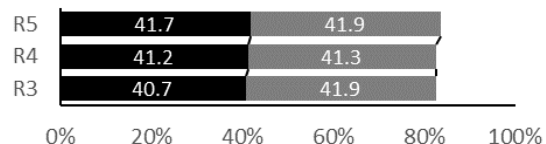
- ② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



- ③ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



- ④ 前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思いますか



3 課題及び指導改善に向けて

※「3 課題及び指導改善に向けて」は、松本市内の公立小学校・中学校に勤務する教職員を対象とした内容で、授業改善の方向を共有する趣旨のものです。

1 調査問題 1

(原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について
 この問題では、【カード②】の下線部「農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた」ことの原因が、【カード③】の下線部「学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていない」ことにあるという因果関係を捉えることが求められています。情報相互の「原因」と「結果」という関係を捉えることができず、【カード②】の下線部が「考え」、【カード③】の下線部が「事例」について書かれていると捉えてしまった児童が多くみられました。収集した情報を整理しながらその情報の意味や相互の関係を考える習慣が身に付いていない様子が見られます。

(2) 指導の改善・充実に向けて
 情報と情報との関係を理解するためには、様々な情報の中から原因と結果、事例と考えなどの関係を見だし、結び付けて捉えることが必要です。国語の授業において、「～が～すると…」 「～によって…」のように情報と情報の関係を示す言葉に着目して情報相互の関係性を明らかにする場面を取り入れてみましょう。また、国語の作文単元や総合的な学習の時間など他教科の調べ学習においては、集めてきた情報をカードや付箋等を用いて整理する場面を積極的に取り入れましょう。その際、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、キーワードを設定してグループ化したり図表にまと

【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくに
えいさしようするのではないかと心配だ。

【カード②】
6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには
見られないほど、雑草の量が増えてきた。
どれくらい増えているか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の
田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】
7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが
追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について
農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】
7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが
減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えない
ようにしている。

【カード⑤】
7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

① 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、
「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、
あとの問いに答えましょう。

【川村さんの考え】
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録
していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて
問題点とその解決方法を書こう。

川村さん

② 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の
問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、
どのように書きましょか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【川村さんの文章】
学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることが
できました。しゅうかくまでは、いくつかの問題がありました。
その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について
説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の
終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを
続けたのですが、いがいに雑草が生えてきて、とても
こまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼ
とくらべてみました。きかんは7月1日から15日まで
です。

右のグラフは、その結果を
もとにして作ったものです。

農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量
(単位)

日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
7月1日	2	1
7月8日	3	1
7月15日	4	1

○田んぼの雑草を取って同じ大きさの
ペラツに入れ、その量を雑草の量とする。

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米を
しゅうかくすることができました。

(条件)
○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ(農家の田んぼと学校の
田んぼの雑草の量)と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

めたりするなど、情報と情報の関係を視覚的に捉えて整理できるようにすると効果的です。ICT 機器の活用も視覚的な情報整理に有効です。

2 調査問題 1 二

(図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、学校の米作りの問題点とその解決方法について、学校の米作りの問題点については【川村さんの文章】のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と【カード④】のそれぞれから分かることを書き、問題点の解決方法については【カード⑤】をもとに書き、六十字以上百字以内にまとめることが求められています。学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることか、【カード④】から分かることかのいずれかしか書いていない児童が多くみられ、正答率は3割を下回りました。図表やグラフなどを用いて(この問題では、必要な条件を全て満たしながら)、自分の考えが伝わるように文章の書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

学習指導に当たっては、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切です。そのためには、まず前項で述べたように、集めた情報を相互の関係性も考えながら整理し、図表やグラフにまとめることや、その過程で自分の考えを明確にしていく場面を丁寧に扱っていく必要があります。そして、文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切です。また、児童の学習状況に応じて、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも効果的です。自分の考えをまとめることが難しい児童には、「だから」「～ので」などの情報と情報との関係を表す語句や、「思う」「考える」などの思考を表す語句を例示したり、着目すべき言葉を示して児童とともに資料を読んだりする指導も有効です。更に、図表やグラフの使用の有無や用い方の異なる複数の文章を比べる場面を取り入れると、図表やグラフを用いることが自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることをより実感することができるでしょう。

3 調査問題 1 三 ア

(学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、同音異義語を文脈の中で正しく使い分けることが求められています。この場合の正答は「意外」ですが、「がい」を「外」と正しく書くことはできているものの、「い」を「意」と正しく書くことができなかった児童が多くみられました。同じ読み方をする「以」と解答した児童が多かったことから、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

学習指導に当たっては、文脈の中で適切な漢字を正しく選択できるよう、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切です。単に漢字練習を繰り返すのではなく、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味を考え必要に応じ辞書で調べたり言い換えを考えたりする活動を積極的に取り入れましょう。また、ICT 機器活用においては、日本語入力時の漢字変換間違いに気を付ける習慣が身に付くようにすることも大切です。

雑草取りを続けたのですが、アいがい雑草が生えてきて、とてもこまりました。

(1) 三 川村さんは、「川村さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていたイ、ウを漢字に書き直すことになりました。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

—— 部ア、ウを漢字で正しいに書きましょう。

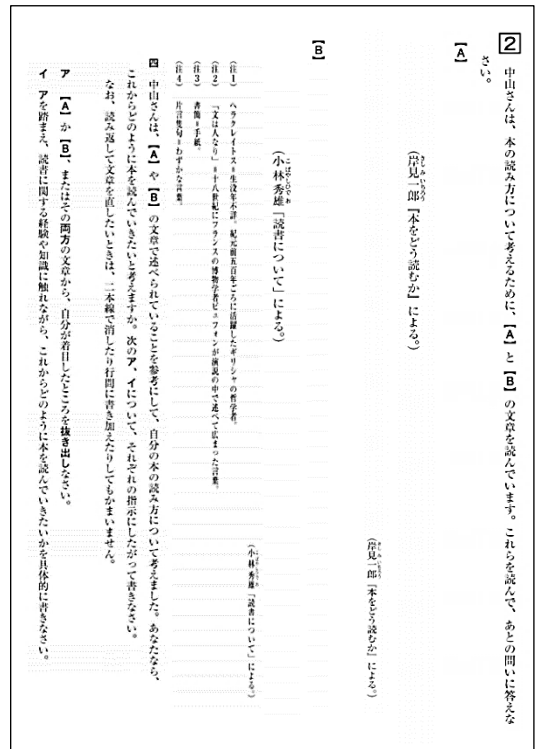
—— 部ア、

1 調査問題 2 四

(文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く問題です。正答率は全国とはほぼ同程度、また、長野県をやや上回っており、本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす力はおおむね定着していると考えられます。しかし、文章から自分が着目した「読書の楽しみ方」を抜き出し、これから自分がどのように本を読んでいきたいかについて具体的に書くことはできていても、その際、読書に関する自分の経験や知識に触れて記述することができない生徒が見られました。これは、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があると考えられます。



(2) 指導の改善・充実に向けて

自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章を読んで知識や経験を単に想起するのみでなく、文章を読んで理解したことや考えたことと結び付けて、一層具体的で体系的なものにしていくことが大切です。

そのためには、以下のような学習過程を設定し、「文章を読んで理解したことや考えたことについて自分の知識や経験と結び付けながらレポート等にまとめる事」と「他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりする事」を通して、物事に対する新たな視点を獲得し、自分の考えが広がったり深まったりしたことを実感することが必要だと考えられます。

- ① 説明的な文章を読み、筆者の考えを理解する。
- ② 筆者の考えに賛成、あるいは反対の立場を設定し、自分の知識や経験と結び付けながらレポート等にまとめる。
- ③ 互いのレポート等を読み合い、他者の考えに共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりして得た新たな気づきをもとに、自分の考えを広げたり深めたりする。

実際の授業の場面では、児童生徒が自分のよりよい学びの姿を意識しながら学習に取り組むことができるよう、次ページのようなルーブリック(表 1)などを活用し、目指す姿を確認できるようにします。レポートを作成する場面では、自分の知識や経験を根拠に、自分の考えを論理的に記述することで説得力のある記述ができるように、教師による支援が必要です。レポートを読み合う場面では、共感・疑問・自分の考えとの違いを観点に、気付いたことを書き出してお互いに伝え合えるようにします。その際に、ICT 機器を使い、オンラインホワイトボードツール(Jamboard など)を活用します。学習の振り返りの場面では、ルーブリックを生かし、自分の考えの広がりや深まりを自己評価します。また、関連する内容の本を読んでもらうという活動を単元の終末に設定することも効果的です。

表1 児童生徒が自分のよりよい学びの姿を意識するルーブリックの例

	目指す姿	更に目指したい姿(例)
本文の内容読解	筆者の考えを理解し短くまとめることができる。	筆者の考えを理解し、自分の言葉で説明することができる。
レポート作成	自分の立場を明確にし、適切な知識や経験を選択してレポートにまとめることができる。	自分の立場を明確にし、適切な知識や経験を選択し、より説得力のある構成を意識しながらレポートにまとめることができる。
レポートの読み合い	自他の考えの違いに着目しながら読み、読書に関する経験や知識と結びつけたり新たな気づきをもとに自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	読み合いで理解した、読書に関する経験や知識と結びつけて考えることや新たな気づきをもとに自分の考えを広げたり深めたりすることのよさを自分の言葉で説明することができる。

2 調査問題 3

(具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに見出しを付ける問題です。

正答率は全国とはほぼ同程度、また、県をやや上回ったことから、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係のうち、特に、具体と抽象に係る関係について理解する力が、おおむね定着していると考えられます。一方で、『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分けることはできていても、後半のまとまりの内容に合う見出しを書くことができていない生徒がみられました。

これは、後半のまとまりが、前半の『判じ絵』とは何か」という内容とは違う内容であると理解できても、『判じ絵』がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのか」について具体的に説明していることを捉え、その内容に合う『判じ絵』の起源と広がり」のような言葉で整理し、前半との違いを表現することに課題があると考えられます。

『判じ絵』について


山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、『判じ絵』というのを知った。『判じ絵』には具体的にどのようなものがあるのか、また、『判じ絵』がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。


2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果
■『判じ絵』とは何か
『判じ絵』とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。
(ア) ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、『判じ絵』こと、つまり、知っていることをもとに「おし」して考えることが必要になる。(イ) 調べてみれば、なぜかクイズのようなものである。(ウ) また、『判じ絵』の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間にも広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができている。

■『判じ絵』の解読の面白さ
『判じ絵』の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。



【図3】は、

【図2】

【図3】

3 山田さんは、『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章の内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容に合う見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを、アからオまでの中から一つ選びなさい。また、後半のまとまりに付ける見出しをきて書きなさい。

③ 山田さんは、国語の時間に、言葉に関する興味をもったレポートにまとめていきます。次は、山田さんが書いていたレポートの「下書きの二題」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(2) 指導の改善・充実に向けて

調べたり考えたりしたことをレポート等にまとめて書く際には、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、自分の考えが伝わる文章にするために工夫したり、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えたりすることが大切です。

そのために、指導にあたっては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と関連させながら、以下のように情報と情報との関係について考えたり情報を整理したりする学習場面を設定し、「知識・技能」の向上につなげる必要があります。

- ① 「話すこと・聞くこと」の単元でスピーチ等を行う学習活動において、「意見」と「根拠」、「具体」と「抽象」等を観点にして効果的な構成を工夫して話し、それらの情報同士の結び付きに注意して聞き、話の要点を見出しにまとめ、話し手の目的や意図に照らして効果的な構成かどうか考え合う場面を設ける。
- ② 「読むこと」の単元で説明的な文章を読む学習活動において、読み取った情報を付箋や図表を使い、上記の観点で比較、分類、関係付け等を行って整理し、筆者の表現の工夫を確かめ合う場面を設ける。

また、個人差が顕著にあらわれる「書くこと」の単元では、一斉一律に作文を書き進める学習展開でなく、単元内自由進度学習を設定することが効果的です。題材の設定から推敲までの一連の流れを、生徒が自分に合った進度や方法を調整しながら活動できるようにしたいものです。その際、調査問題②四で示したルーブリックを活用し、生徒自身が自己評価を支援することも大切です。

1 調査問題 ③ (4)

((2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考察することができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、 $66 \div 3$ の筆算について、計算に関して成り立つ性質や図を基に、十の位にたてた「2」の意味を捉えることが必要になります。筆算の商の十の位にたてた「2」が、 $60 \div 3$ の計算をした結果を表していると捉えるために、 $66 \div 3$ の筆算を図と関連付けて考察することが必要です。正答は、商の十の位にたてた「2」が60を3等分した結果と捉えているもので、松本市では課題が見られました。

最も多かった誤答は、筆算の十の位にたてた「2」を「 $60 \div 3$ 」ではなく、「 $6 \div 3$ 」の計算をした結果と捉えており、松本市、そして県内の児童の約3割がこの解答を選んでいました。これは、十の位にたてた「2」を商が2になる式の $6 \div 3$ に着目したためと考えられます。

今回の結果から、除法の筆算において、計算の仕方の意味を、具体物や半具体物の操作と関連付けて捉え直すことに課題があることが見えてきました。単に除法の筆算の計算処理ができるだけでなく、筆算の計算処理の一つ一つの段階を図と関連付けて捉えたり、除法について成り立つ性質と関連付けて考えたりすることに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要です。例えば、除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられます。その際、除法の筆算が、被除数の66を60と6に分けて計算するという考え方に基づいていることを理解できるようにすることが大切です。

実際の授業では、66を3で割る場面で、設問の「手順2」のように「66」を10円玉6個と1円玉6個で表し、筆算の商の十の位にたてた「2」は60を3で割った結果である「20」を表していることを、筆算の表現の隣に10円玉6個を3等分した図や式「 $60 \div 3 = 20$ 」に表して提示する方法が考えられます。更に分解して計算する考え方の理解を深めるために、(2位数)×(1位数)の筆算の学習段階から、被乗数を十の位と一の位に分けると計算できることや、この計算は分配法則を用いると捉え直すことができることを、筆算の表現を具体物などの図や式と関連付けて考える場を設けることが必要です。そのうえで、(2位数)÷(1位数)の筆算においても、被除数を十の位と一の位に分けることを用いて計算の方法を考えたり、分配法則と同様の性質が、除法でも成り立つのかどうかを考えたりすることで、統合的・発展的に考察できるようになると考えます。

(4) けんたさんは、 $66 \div 3$ の筆算について、次のように図を使ってふり返りました。

[$66 \div 3$ の筆算]	[けんたさんの説明]
手順1 $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \end{array}$	10を⑩、1を①で表して、60について考えます。
手順2 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \end{array}$	
手順3 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \end{array}$	6について考えます。
手順4 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \end{array}$	
手順5 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$	

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下のようにも考えることもできます。

$$\begin{aligned}
 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\
 &= \overset{\text{あ}}{60} \div 3 + \overset{\text{う}}{6} \div 3 \\
 &= \overset{\text{い}}{20} + \overset{\text{え}}{2} \\
 &= 22
 \end{aligned}$$

【 $66 \div 3$ の筆算】の「手順2」で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。一つ選んで、その記号を書きましょう。

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \end{array}$$

2 調査問題 4 (1)

(百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、百分率で表された割合である30%について、100人や10人を基準量としたとき、それらに対する比較量を捉えることが必要となります。百分率で表された割合についてその意味を理解しているかどうかポイントになります。正答は、基準量に割合である30%、つまり0.3をかけて求めた人数と比較量の人数が一致しているものとなります。

この問題における松本市の児童の理解に関しては、全国と同様にかんがりの課題があると言えます。最も多かった誤答は基準量を100とした解答を選んだものでした。この原因は、「百分率」という言葉にふくまれる「百」という文字による誤認識や、日常の様々なところで常に基準量を100として考える場面の多さにあると考えられます。

また、次に多かった誤答は、0.3を含んだ解答を選んだものでした。これは、「30%」という割合を小数倍で表したときに「0.3(倍)」となり、これが解答に関係してくるものと捉えたことが原因であると考えられます。

今回の結果から、割合を数値に直す技能は身に付いている中で、割合が示されているときに、基準量と比較量について十分に捉えられておらず、割合の知識が十分身に付いていないという課題が見えてきました。百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが大切です。

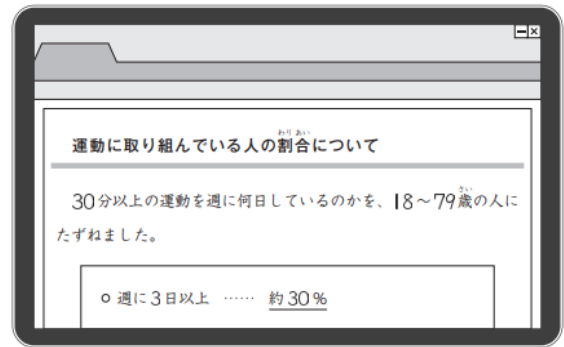
(2) 指導の改善・充実に向けて

指導に当たっては、日常生活の場面において、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が取り組みやすいと考えます。その際、関係図や線分図を活用して、図をかいて考えることができるように指導していくこと、更にどちらを活用するかについては、児童が使いやすい方法を選ばせていくことも考えられます。また、図をかく際には、基準量が何か、比較量が何かというように、言葉をおさえてから図に取り組むようにすると、つまづきを減らせるようになると考えられます。

この問題においては、百分率は基準量を100としたときの比較量の割合であることから、100人を基準量としたとき、それに対する比較量は30人と捉えることができるようにすることが大切です。また、歩合は基準量を10としたときの比較量の割合であることから、10人を基準量としたとき、それに対する比較量は3人と捉えることができるようにすることも大切です。更に30%を「30人をもとにした1人の割合」と誤って捉えている場合、30人を基準量としたとき、10%が3人であることから、30%が9人であることを確かめ、誤りに気付くことができるようにすることが大切になります。

なお、百分率の理解を深めるために、小数倍と百分率の関係を、数直線を使って丁寧に抑えていくことも大切です。また、「パーセント」という用語に難しさを感じる児童もいるため、指導にあたっては、0.01を1%と表したにすぎないことを知らせ、小数倍と百分率の関係を捉えることができるようにすることが必要です。

4 あいさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。



1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

1 調査問題 8 (3) (事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

駅伝で、6区のスタート地点から約何mの地点で、遅れてスタートした選手が前の選手に追いつくか求める方法を、2本のグラフを用いる方法と2つの式を用いる方法のどちらかを選択して記述する問題です。この問題は、半数以上の生徒が説明に必要な条件を満たした記述ができませんでした。

事柄を調べる方法や手順を説明するためには、用いるものとその用い方を記述する必要があります。この問題では、用いるものは示されているため、その用い方を明らかにする必要がありますが、関数の学習において2本のグラフの交点が示すものや、その2つの式からなる連立方程式の解が表すものは何かについて十分理解できていないため、必要な条件を満たすことができなかったのではないかと考えられます。

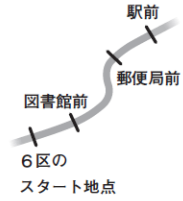
(2) 指導の改善・充実に向けて

事柄を調べる方法や手順を記述するためには、用いるものとその用い方を適切に表すことが求められます。しかし、2つの大学の選手が通過した時間の差がグラフのどの2点のx座標の差として表れているかを問う(1)の正答率が6割に満たなかったことから、一次関数のグラフの座標は理解していても、そのx座標やy座標が具体的な場面では何を意味しているのかを理解できていない生徒が、ある程度いると考えられます。そのため、(3)において用い方を記述できなかったと考えられます。グラフや式などの基礎的な知識を身に付けさせるだけでなく、その知識と具体的な事象がどのように結びついているのかを丁寧に扱っていくことが大切です。

方法・手順の説明の際は、用いるものとその用い方を記述させるだけでなく、それまでの学習を通して、説明する事柄と知識とをしっかりと結びつけておくことが大切です。

8 大悟さんが住む地域にある新緑大学は、大学対抗駅伝大会に出場します。この駅伝大会では、コースを7区間に分け、1区から7区までをリレー形式で走ります。大悟さんは、新緑大学の6区の選手の応援に行きました。6区の道のりは12000mあり、6区のスタート地点では、晴天大学が先にスタートし、新緑大学がその100秒後にスタートしました。

大悟さんは、インターネットで6区の速報を見て、新緑大学が晴天大学に追いつきそうだと考え、その地点を予想することにしました。



順位	記録	大学
○	○分○秒	晴天大学
○	○分○秒	新緑大学

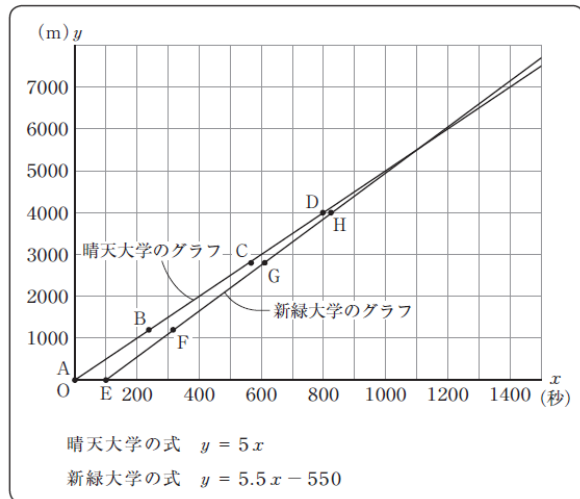


そこで、大悟さんは、晴天大学と新緑大学の6区の各地点の記録を、晴天大学の6区の選手がスタートしたときを0秒として、下のような表にまとめました。

大悟さんがまとめた表

地点	スタート地点からの道のり	晴天大学	新緑大学
スタート地点	0 m	0 秒	100 秒
図書館前	1200 m	238 秒	316 秒
郵便局前	2800 m	567 秒	611 秒
駅前	4000 m	798 秒	824 秒

コンピュータを使って表された直線のグラフと式



(3) 新緑大学が晴天大学に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるのかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いておよそ何mの地点になるのかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何mかを求める必要はありません。

ア 晴天大学のグラフと新緑大学のグラフ

イ 晴天大学の式と新緑大学の式

2 調査問題 9 (2) (条件変えによって事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る問題)

(1) 課題が見られた問題について

厚紙で作った2つの二等辺三角形を使ってひいた2つの直線が平行になることを証明(証明1)したうえで、条件を変えた場合に2つの直線が平行にならないことの説明を、証明1を振り返って完成させる問題です。

この問題の正答率は4割弱で、全国同様にかなり課題が見られます。二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の式③が成り立たなくなることは理解しているものの、式③が成り立たないことによって式④も成り立たなくなることを理解していない生徒が多いと考えられます。また、二等辺三角形ではなくなるという根拠だけで式③と式⑤に着目すればよいと捉えた生徒や、見通しがもてないまま無解答である生徒が全国とほぼ同程度見られます。これらのことから、証明を振り返って読み取る力をつけていく必要があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

図形領域の指導においては、この問題のように一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりを通して、統一的・発展的に考えることができるようにすることが大切です。また、生徒が自ら図形の性質を見つけ、それがいつでもいえることを証明する喜びを味わう姿を期待したいものです。

この問題のように問題の条件が変わることによって証明のどの部分が変わらないのか、どの部分がどのように変わるのか、そして証明は成り立つのかなどを、証明の流れに沿って読み取ることが必要です。そのための指導の改善・充実の方向として、証明を読むことができるようにする指導をより重視していきましょう。自分の証明だけでなく、グループや全体追究で他者の証明を読み合う活動も有効です。その際、根拠となる性質を図と対応させたり定理を確認したりしながら読み取ることが大切です。そうすることが、条件を変えた場合にも変わらず成り立つ部分と成り立たなくなる部分を読み取ることにつながると考えます。

さらに、二等辺三角形ではない合同な三角形で平行線がひけるようにするにはどうすればよいかを、厚紙で合同な三角形を作って操作したり作図をしたりして考え、図形の性質を成り立たせる条件を見いだすような統一的・発展的な活動も有効です。

9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

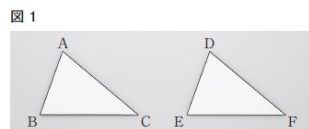
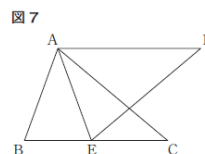


図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

(2) 優奈さんは、前ページの**方法2**の直線 BC と直線 AF が平行になるかどうか調べるために、次の**図7**をかきました。**図7**の $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $FA = FE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle AEF$ です。この図において、優奈さんは $BC \parallel AF$ であることを証明することにしました。

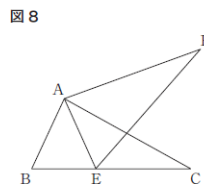


$BC \parallel AF$ であることは、次のように証明できます。

証明1

$\triangle ABC \cong \triangle AEF$ より、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、
 $AB = AE$ ……①
 $\angle ABC = \angle AEF$ ……②
 $\triangle AEF$ において、二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle EAF = \angle AEF$ ……③
 ②、③より、
 $\angle ABC = \angle EAF$ ……④
 また、①より、 $\triangle ABE$ は二等辺三角形である。
 二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle ABE = \angle AEB$ ……⑤
 $\angle ABE = \angle ABC$ だから、④、⑤より、
 $\angle EAF = \angle AEB$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC \parallel AF$

次に、優奈さんは、19ページの**図1**の2つの三角形を $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えました。この場合も**方法2**でひいた2つの直線が平行になるかどうか確かめたところ、2つの直線は平行になりませんでした。なぜ平行にならなくなったのかを調べるために、次の**図8**をかきました。**図8**の $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は二等辺三角形ではなく、 $\triangle ABC \cong \triangle AEF$ です。



優奈さんは、**図8**で $BC \parallel AF$ とならないのは、前ページの**証明1**の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。**図8**のような二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないため、 $BC \parallel AF$ となりません。このことは、**証明1**をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、**証明1**の **I** が成り立たないから、**II** が成り立たない。よって、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないから、 $BC \parallel AF$ とならない。

上の **I** には**証明1**の①、②、③のどれか1つが、**II** には**証明1**の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。**I**、**II** に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。


1 調査問題 6 (必要な情報を読み取る問題)

(1) 課題が見られた問題について

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題です。メールから読み取った情報を基にイベントを選ぶ際に、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取ることによりかなり課題があります。正答である3を選択した生徒と誤答である4を選択した生徒がほぼ同じ割合でした。これは、日付や時間に関する条件を正しく読み取れていない、もしくは、dinner という情報と“Cook & Eat”というタイトルを結び付けてしまったことが理由として考えられます。

(メール文抜粋) I will arrive on Saturday afternoon.
I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.

3 City Orchestra




You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time
Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place
Tsubomi Hall

4 "Cook & Eat"



Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time
Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place
Cooking Room "Wakaba"

(2) 指導の改善・充実に向けて

出題の意図に沿った学力をつけるためには、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるかを判断したうえで読み取ることが重要です。授業では、学習指導要領に示されているように、「日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動」を意図的に行っていくことが必要です。

2 調査問題 10 (まとまりのある文章を書く問題)

(1) 課題が見られた問題について

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題です。単純な比較はできませんが、松本市における前回と同様の趣旨の問題の結果と比べると、正答率が前回に比べやや上がっていることから、まとまりのある文章を書くことについて指導の改善が図られつつあると考えられます。

しかし、まとまりのある文章を書くことに関しては、依然、かなり課題があり、「コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項の誤りがある解答」や「話題が次々と変わったり、文と文との関係において適切さを欠いていたりするなど、内容に一貫性が見られない解答」も多く見られました。また、無回答の生徒が約2割いることも課題です。

基本的な語や文法事項等を理解し、それらを活用して文章を書くことや、文章構成を意識し

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

≪正答の条件≫

- ① 学校生活（行事や部活動など）の中から1つ取り上げている。
- ② 紹介する内容を一貫性のある文章で書いている。
- ③ 25語以上の英語で書いている。

【正答にならなかった解答例①】
コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるものの例

We school have a sports festival. It is held in October. Also, It is so excited and tired, but I think that great memory in the junior high school life.

【正答にならなかった解答例②】
一貫性のある文章で書かれていないものの例

・ I'm in the basketball team. I practice very hard with my friend. But I was fun. We have to win the next game. Basketball is interesting.

ながら書くことに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解し、それらを活用して文章を書くことができるように指導することが必要です。更に説明文を書く際には「主題とその具体例」、意見文を書く際には「もっとも伝えたいこととその理由」など、目的に応じた文章構成を用いて書くことができるように指導することも大切です。

教科書の Mini Activity や Unit Activity を、各単元の基本的な語や文法事項を理解して文章を書く機会とし、それを積み重ねて Stage Activity でまとまった文章を書いて発表する機会にするというサイクルを明確にして、計画的に書く力を高めていく指導が必要です。その際に、書き表したものをペアやグループで読み合い、言語面での気づきを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考に推敲するなど、生徒が主体的に取り組める学習形態の工夫が必要です。

3 調査問題 ① (話すこと)

(1) 課題が見られた問題について

動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える問題です。日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面で活用できる技能を身に付けている必要があります。本設問では、ゾウの誕生日について“When is his birthday?”と直接尋ねられているのではなく、自然なやりとりが展開されている中で、看板に書いてある情報について“What does this say?”と尋ねられていることに解答する必要があります。

正答にならなかった解答例からもわかるように、定型表現や文法事項自体に誤りがある生徒は少ないものの、スクリプトにある内容の流れを捉えきれていなかったと思われる生徒が多く、相手が知りたいと考えている情報が不足していたり、相手が求めている情報が何かを理解していなかったりなど、目的・場面に応じて適切な情報を伝えられていないものが多くみられました。2 問目以降は答える内容が明確であり、無解答率は 1 問目よりも低い状況です。そのことから、定型表現のやりとりのみでなく、場面や状況に応じて相手の意向を意識した上での情報のやりとりはかなり課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

一問一答の事実発問だけでなく、どの情報をどのように伝えるかといった場面を考え、言語活動につなげていく必要があります。定型表現をやりとりする練習に加え、日付、曜日といった基本的な表現を「情報」に置き換え、どのような場面で「日付」「曜日」を伝える必要があるのかといった状況の中で生徒たちがやりとりをしていくことが大切です。今回のように、相手にとって「わからない」「知りたい」情報は何かという視点を取り入れ、どのように伝えるかといったことを ICT 機器も用いながら、生徒同士が共有し、自分たち自身で見直したり考えたりする機会を増やしていけるとよいでしょう。

(1)

(スクリプト)
A baby elephant. How cute. ... I can read some Japanese. Its name is Taro...it's a boy...and, what does this say?

【正答例】

His birthday is March first.

【正答にならなかった解答例①】

看板の情報について誕生日であることとその日付の情報のうちいずれかが不足している例

Birthday / It's March first.

【正答にならなかった解答例②】

相手からの質問を理解できていない、または基本的な語や文法事項などの知識が身に付いていないと考えられる例

His name is Taro. / Three one.

ICT機器を活用した学習活動

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことは、勉強の「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と感じている児童の割合が、昨年に引き続き9割を超えています(図1)。これは、情報収集などの調べ学習でICT機器を活用し、課題を解決している児童が増えていることを示しています。

しかし、児童にとってICT機器が「役に立つ」とはどういうことなのかについては、分析していく必要があると考えます。図2で、「役に立つと思う」と答えた児童と「どちらかといえば役に立たないと思う」と答えた児童の正答率に大きな差がありません。このことから、児童のICT機器活用への期待や願いに添えるような方法について、更に模索していく必要があると考えます。

他者との協働

図3は、「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分なりに考えをまとめていますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。

自分とは違う多様な考えを受け入れながら、自分の考えと比較検討し、自らの考えを再構築してまとめている児童は、国語では70ポイントを超える正答率となっています。一方で「当てはまらない」と回答した児童の正答率は、国語も算数も50ポイント台となっています。

児童の思考力・判断力・表現力を育むにあたり、児童が他者と関わりながら自分とは違う立場や考えを意識し、自分の考えを深めていく必要があります。そのために、特に次の3点を意識して授業改善を進めることが大切です。

- ・ 問いや思い、願いに基づいて一人一人が課題意識をもてるように導入場面を工夫する。
- ・ 一人一人の学びを見取って適切に支援しながら展開を工夫する。
- ・ 新たな学びにつながるように、終末場面の振り返りを工夫する。

図4は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。「当てはまる」と回答した児童の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童と比較すると、国語で14ポイント、算数で17ポイント以上高くなっています。このことから、他者との協働を通して、自分と違う意見に触れ、多面的・多角的に考えることが学力向上につながると考えられます。

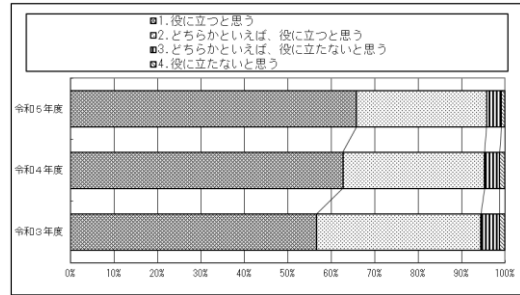


図1 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の回答

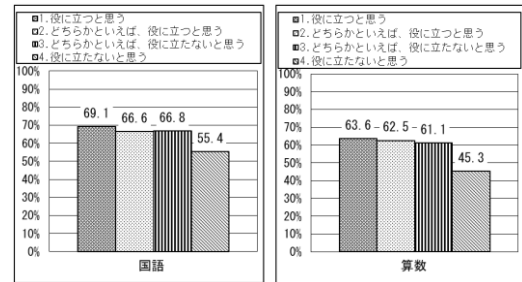


図2 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の回答と平均正答率の相関

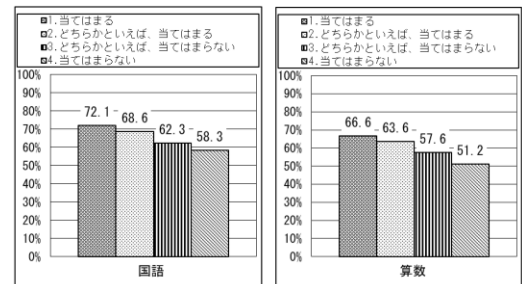


図3 「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分なりに考えをまとめていますか」の回答と平均正答率との相関

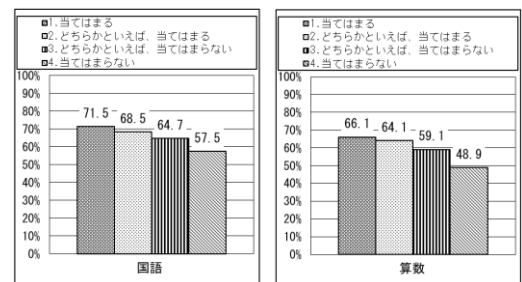


図4 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答と平均正答率との相関

図5は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。「当てはまる」と回答した児童の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童と比較すると、国語、算数ともに10ポイント以上高くなっています。単に他者の考えを聞くだけでなく、自分の意見との違いを明確にすることを通して、自分の考えを再構築することが思考力を高めることにつながると考えられます。

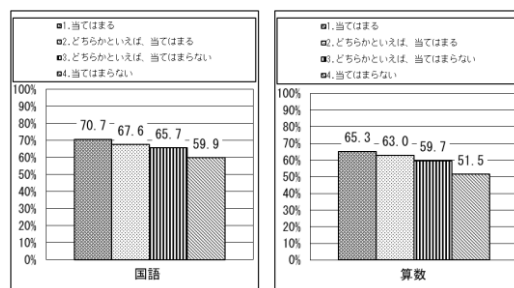


図5 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の回答と平均正答率との相関

課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組もうとする態度

図6は、「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答と各教科の平均正答率との相関図です。「当てはまる」と回答した児童の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童と比較すると、国語では23ポイント、算数では30ポイント以上も高くなっています。正答率の高い児童の方が、自分で考え、自分から取り組んでいることがわかります。

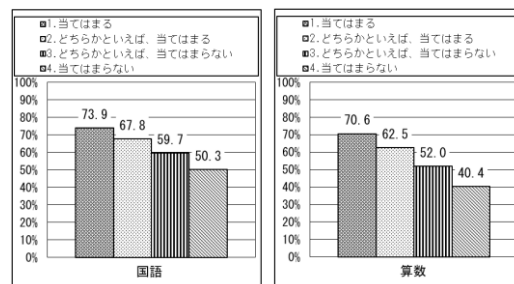


図6 「5年生までに受けた授業では、課題に解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答と平均正答率との相関

また、図7の「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問についても、「当てはまる」と回答した児童の正答率は「当てはまらない」と回答した児童の正答率より、特に算数では25ポイント以上高くなっています。

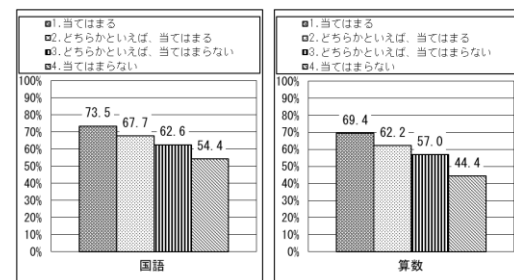


図7 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答と平均正答率との相関

児童が課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだり、学習した内容を見直して次につなげたりすることで、資質・能力が育成されていくものと考えます。

総括

GIGAスクール構想によって1人1台端末環境が整備され、9割近い児童が、ICT機器の活用は役に立ち、楽しいと感じています。一方で、「児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」という質問に対し、学校が「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合は、全国と比較すると約23ポイント低くなっています。児童の期待や願いに沿って、ICT機器も活用する授業づくりを進めていく必要があります。

また、質問紙への回答状況から、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すことが大切であると言えます。児童が学習進度や課題などを選択できるようにしつつ、互いに学び合う環境を構成することも大切です。共同で作成・編集を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動等、児童自身が他者と交流を通して自分の考えを広げ深めることができるよう支援していく必要があります。

主体的に学ぶ生徒

図1は、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問についての回答です。「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答した割合は、全国よりおよそ4ポイント高くなっています。また、図2は、「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問についての回答です。「当てはまる」と回答した割合は全国よりおよそ3ポイント高くなっています。

生徒の疑問や問いを活かした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、生徒の主体的な姿につながっていると考えられます。

「協働的な学び」のよさを感じている生徒

図3は、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問についての経年変化です。肯定的な回答をした生徒の割合は、令和5年度は80%を超え、学習指導要領改訂前の平成28年度と比較すると15ポイント高くなっています。これは、令和3年度から完全実施となった新学習指導要領の柱の一つである「協働的な学び」の実現に向けた授業改善が進んでいるものと考えられます。

授業でのICT機器の使用

図4は、「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問についての経年変化です。令和5年度は83%の生徒が週に1回以上ICT機器を使用した学習を経験しています。調査を開始した令和4年度と比較すると、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は5ポイント高くなっています。週1、2回の使用では十分とは言えませんが、授業でICT機器を使用し、学習する機会は増えてきています。

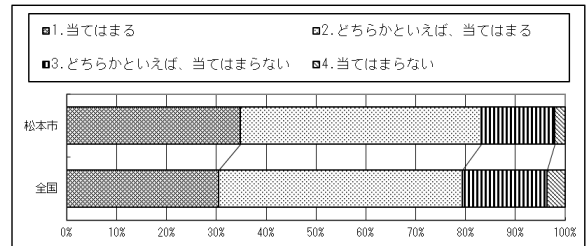


図1 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答

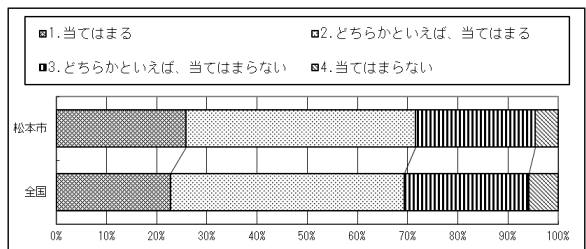


図2 「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答

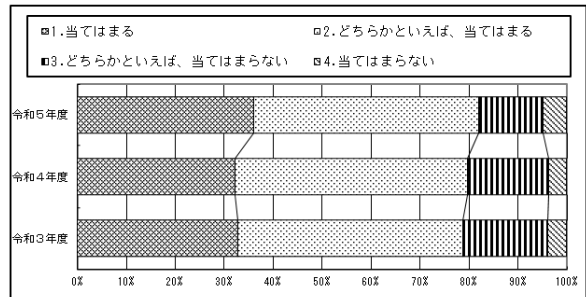


図3 「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の回答

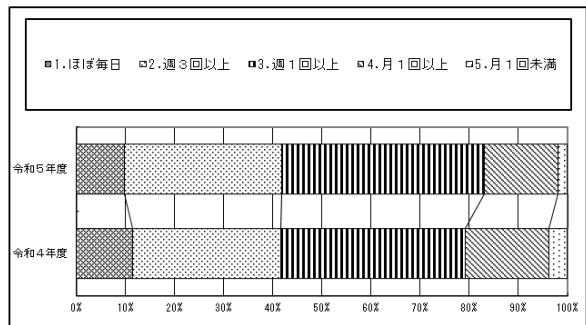


図4 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答

自分の考えをまとめる活動

表1は、「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答と平均正答率です。「当てはまる」と回答した生徒ほど、正答率が高くなっています。自己の学習を振り返って次につなげることが、主体的な学びの実現につながっていると言えます。習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解することが大切です。また、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現していくことが大切だと考えられます。

表1「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答と各教科の平均正答率

選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1 当てはまる	438	25.9	75.4	59.6	53.0
2 どちらかといえば、当てはまる	774	45.7	72.1	53.8	47.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	401	23.7	64.8	45.4	39.0
4 当てはまらない	79	4.7	56.1	36.5	31.1

個に応じた指導の充実

一方で、図5は、「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問についての経年変化です。「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は、令和3年度や令和4年度と比べると減少しています。これは、生徒が自分にあった学習方法や教材、学習時間等をこれまで以上に求めているためだと考えられます。

教師が個に応じた指導をする際には、ICT機器の活用も含め、生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切です。

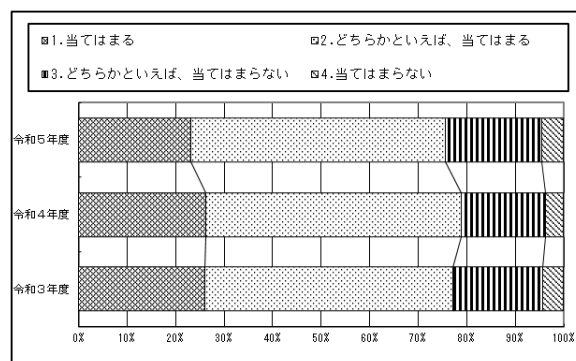


図5「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の回答

総括

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問や「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合が高いです。

このように学習者である生徒の学びが充実している理由は、教師の授業改善が進んでいる結果だと言えます。1人1台端末により、探究の過程として位置づけられている「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」における活動が、徐々に充実してきています。このことにより、生徒には見通しをもって粘り強く取り組む力が身に付いたり、多様な考えに触れることで自分の考えを深めたりしていることが伺えます。

しかし、ICT機器を活用した授業改善はまだ十分ではありません。生徒の興味・関心に応じて、情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信といった活動にICT機器を効果的に活用することで、深い学びが実現していくものと考えられます。

今後の授業改善においては、ICT機器の活用も含めて生徒が自ら学習方法や進度などを選択する機会を設けることを、教師が強く意識することが重要です。教師が生徒一人一人に応じた学習課題や学習活動に取り組む環境を構成することで、生徒が学習の進め方を自らに合ったものに調整できるようにすることが期待されます。

教育委員会資料
5. 1 1. 2 4
中央図書館

周知事項 1

年末年始期間における貸出冊数の変更について

1 趣旨

令和3年度から実施している年末年始等の長期休館中における貸出冊数の変更について、本年度も実施することについて周知するものです。

2 実施内容

(1) 年末年始休暇期間

令和5年12月29日（金）～令和6年1月3日（水）

(2) 貸出冊数を変更する期間

令和5年12月23日（土）から12月28日（木）の5日間

(3) 貸出冊数の変更内容

「貸出冊数10点まで」を「貸出冊数15点まで」に変更

(4) その他

ア 視聴覚資料の点数（5点まで（内、映像資料は3点まで））、予約点数（10点まで）の変更は行わない。

イ 実施期間の貸出の返却予定日（※年末年始休館を除く14日間）

貸出日	返却予定日	貸出日数	備考
12月23日（土）	1月12日（金）	20日間	
24日（日）	13日（土）	20日間	
25日（月）	14日（日）	20日間	南部のみ開館
26日（火）	16日（火）	21日間	南部休館
27日（水）	16日（火）	20日間	南部は17日（水）まで
28日（木）	17日（水）	20日間	

3 周知方法

(1) 図書館の館内掲示、チラシ、FMまつもと等により周知します。

(2) 図書館ホームページ、図書館 Facebook および図書館 X (旧 Twitter) に掲載します。

担当	中央図書館
館長	藤森 千穂
電話	32-0099

教育委員会資料
5. 1 1. 2 4
文化財課

周知事項 2

松本城南・西外堀跡発掘調査現地説明会の開催について

1 趣旨

本年度実施している松本城南外堀跡第6次および西外堀跡第5次発掘調査の成果を一般に公開、周知するため、標記事業を開催することについて周知するものです。

2 開催内容

- (1) 日 時 令和5年12月9日(土) 10時から12時まで
- (2) 場 所 史跡松本城南・西外堀跡発掘調査地(松本市大手3丁目3-84ほか)
- (3) 申込方法 事前申込不要(参加無料)
- (4) 内 容 現地の説明(石垣、木杭列など)および出土遺物の説明(鯨瓦など)

3 調査成果

今回の南・西外堀跡の調査目的は、外堀の平面および断面形状を確認するものです。調査によって、南外堀三の丸側の石垣や、二の丸側の木杭列、南外堀東部の断面形状を確認しました。

西外堀では初めてとなる断面形状の確認、二の丸側の木杭列を確認するとともに、鯨瓦等の遺物も出土しました。

今後、南・西外堀の整備を進めるにあたり必要となる貴重な成果が得られました。

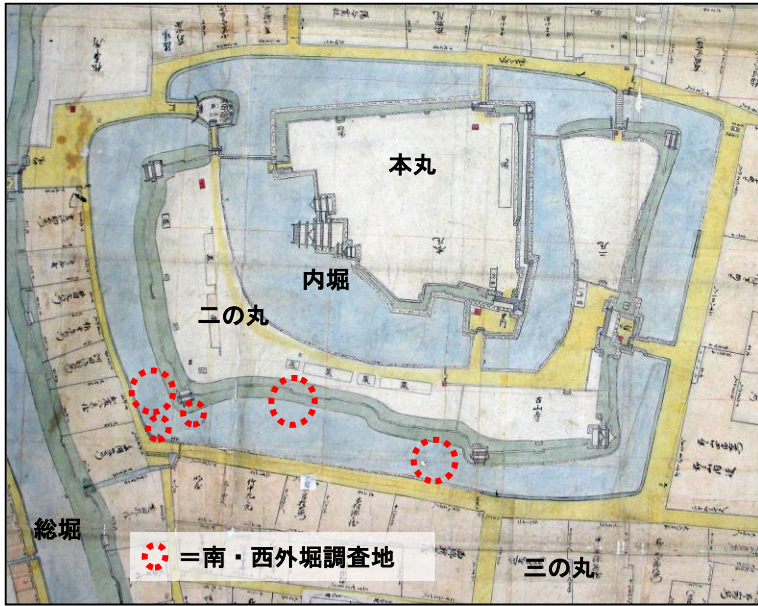
4 周知方法

- (1) 松本市ホームページ
- (2) プレスリリース
- (3) 松本市文化財課SNS (Facebook、Instagram)

5 その他

- (1) 後日、松本市YouTubeチャンネルにて発掘調査報告動画を公開します。
- (2) 雨天の場合、現地見学は中止しますが、資料の配布と出土遺物の見学・説明は実施します。

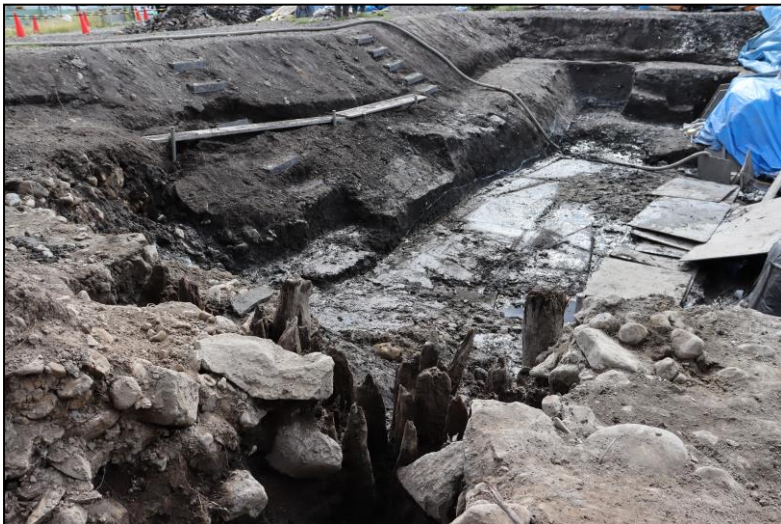
担当	文化財課
課長	竹原 学
電話	34-3292



絵図で見る調査地の位置
(「享保十三年秋改松本城下絵図」
部分・加筆)



南外堀三の丸側で出土した
木杭列



西外堀二の丸側で出土した木
杭列と堀横断面